

# 天然水のおいしさをお届けする「富士の湧水」事業

岩谷産業株式会社

岩谷産業におけるミネラルウォーター事業は、2003年に当社の関係会社が宅配のミネラルウォーター事業を取得することになったのが始まりであった。当時は水を宅配でお届けし、専用のウォーターサーバーを自宅に置いて使用するという新しい事業モデルが、日本におけるミネラルウォーター分野で急速に進展していた時期でもあった。当社も山梨県富士吉田市に第2工場を建設し、本格的に宅配水事業に参入した。その後、2006年に、ミネラルウォーターメーカーとして専念するため、富士の湧水を設立し現在に至っている。

## 使い切り方式を採用

宅配水事業は、そもそもは海外で普及していた飲用習慣が日本に取り入れられたものである。日本でペットボトルのミネラルウォーターが生活飲用水として定着し、水は「水道水を飲む」から「買って飲むもの」になる大きな流れの中で、海外渡航者の増大に伴う認知度の高まり、ウォーターサーバーを使って飲むスタイルや、宅配されることにより重いペットボトルを運ばなくて済む便利さが受けて、宅配水の利用が大きく広まった。

業界もこの10年間を第1ステップとして、海外スタイルの導入・拡大という時期を終えた。今後は第2ステップとして世界一厳しいといわ

れる日本のお客さまのニーズに応え、宅配水を生活に密着させるために、各社とも日本型の事業モデルの模索が始まっている。

当社は2010年夏、富士吉田市に「使い

切りパック“富士の湧水”専用工場として第3工場を建設し、今までとは違った日本型の事業モデルとして、従来のガロンボトル(11ℓ程度の樹脂製容器)によるリターナブル方式から、使い切り容器を採用したワンウェイ方式に大きくかじを切った。リターナブル方式はボトル再利用による低コストという利点はあるが、将来にわたる日本のお客さまの品質要求にこたえていくためには限界があると判断し、「いつも新品の容器」でご利用いただくため新工場建設、新製品への切り替えを行った。

また従来は、ガロンボトル1本洗浄するために、3本分の原水を使用していた。「いつも新品の容器」でご利用いただく使い切り方式の採用により、貴重な原水を洗浄に使用することなく、また最新の生産設備を導入したことで、現在の3倍の、年間約900万個の生産が可能となった。

## 天然水へのこだわり

現在、全国の宅配水サーバーの設置台数は約100万～110万台といわれている。そのうち約45%はオフィスなどでの利用だが、日本の事業所数から想定するとかなり浸透したと思われる。おいしい水、安全な水を手軽に飲みたいという消費者意識の変化に伴い、家庭用はまさにこれから広がっていく市場である。

また、水そのものも大きく2つに分類することができる。1つは水道水などをろ過し、ミネラル成分の添加で、よりリーズナブルな価格で普及を図るタイプ。もう1つは当社のように天然水のおいしさにこだわったタイプである。どちらが良いということではなく、消費者の選択肢があるということは、宅配水市場の拡大には望ましいことだと考えている。

当社の現在のサーバー設置数は約9万3,000件(2010.10現在)である。「富士の湧水」ならではのバナジウムをたっぷりと含んだおいしい水を安全にお届けすることで、確実にファンを広げていきたいと考えている。

JF  
TC



手軽な使い切りタイプの専用ウォーターサーバー